

第3回 健全育成分科会 議事録

分科会：第2分科会「自己肯定感の醸成」

作成者：吉井（サブリーダー）

開催日：2018/11/4（土）9：30～12：00

会 場：かながわ労働プラザ 第8会議室

参加者：鶴見総合、保土ヶ谷、多摩、住吉、茅ヶ崎、平塚中等教育、伊志田、上溝南、OB、
高P連（3名） 12名

内 容：県大会に向けて

#課題

先に提示していた A 案（講演会形式）か B 案（分科会メンバー中心のセミナー形式）を決定する

A 案：・県大会紹介文には、講演と銘打ってある。

- ・準備の時間が足りないのでは？
- ・年度末の全体会でじっくり発表する機会があるのではないか。
- ・昨年聞いた講演の中で分かりやすかったのは、工藤氏なのでオファーしてみる。

B 案：・今まで自己肯定感について、アプローチの違いはあるが、根底にあるものは同じところ＝「自己肯定感を上げることの重要性」につながっている。そのようなさまざまな話を纏めて、発表することに意味があるのではないか。

- ・講演は眠くなることもある。ディスカッションに多くの時間を使うことになると、否応なく参加することで、モチベーションもあがる。
- ・他の分科会は講演会形式も多く、このような形で行うと、PTAのイメージも変えられるのではないか。

共通項テーマ：・ディスカッションは必要。

- ・答えを出すのではなく、考えてもらうことが大事。自己肯定感という言葉を意識したことのない保護者や、日ごろ不安を感じている保護者に寄り添い、興味を持ち、考える機会を与えられる場にしたい。
- ・A 案をとるにしても、その点を理解してもらい、話をつめる必要がある。
- ・具体的なやり方、方法からはじめると実感できる。隣に座っている人とのやりとりや話をする事で、整理できたり、答えの糸口が見つかることもある。ただし、愚痴の言い合いになる場合もあるので、「自分を高める」方向に導いていく役割を、分科会メンバーが担う必要がある。

「自己肯定感が高いことが良いこと」は分かっている。

でもどうすれば？を知りたい！

#結論

日本セルフエスティーム協会工藤氏のオファー(11/5 午前に判明)が困難であれば、B案とする

- A 案の場合は以上の内容の趣旨を理解してもらい、あくまで、保護者目線の構成をお願いする。
- B 案の場合

テーマ ①自己肯定感とは？

②自己肯定感が高まるとどうなるのか。どのような意味があるのか。

③自己肯定感を上げるには、どうすればいいのか。

構成 1. スタート(本日の趣旨説明)

2. オープニング..... テロップでワードを次々流す。(言われて、あるいは言うと嫌な言葉等?)

3. 自己肯定感ってなに?(昨年度メンバー:鶴見総合、伊志田、OB)

4. 一回目ディスカッション

5. 自己肯定感をどのように考えていますか?

6. ギフトトレーニング説明(資料:住吉、コメント?)

7. 自己肯定感を高める必要性(後藤氏講演より)

8. 二回目ディスカッション

9. 学校現場から、保護者に求められているのは?(校長)

10. 質疑応答

次回予定:

日時:11月18日(日) 13:00~17:00

会場:シルクセンター小会議室

内容:県大会に向けての準備

追記:

工藤氏の都合がつかなかったため、B案で構成することに決定。

紹介文:プレゼンター:第二分科会メンバー

内容:「自己肯定感ってなに」「肯定感を高めるとどうなるの」「どうすればいいの」保護者の皆さんは自己肯定感という言葉をもう少し知ってみたいと思いませんか。第二分科会で、保護者目線から自己肯定感について考え、そして皆さんと一緒に話し合っていきましょう。

以上